



「未来で生かす力」をつけるために、 今、大切にしたいこと

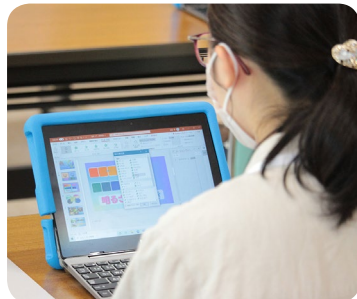
幸手市立八代小学校

本校では、子どもたちに身につけさせたい力の一つとして、「イノベーション力(物事を多面的に捉え、探究し、新たな価値を生み出す力)」を掲げています。今後ますます予測困難となる時代をたくましく生き抜き、社会で活躍できるための重要な資質の一つであると捉えています。そこで、『①学びや体験を他の領域に活用する。



②目標や目的を自分で設定、自ら判断・行動する。③根拠を明確にして自分の考えをもつ。④自分の認識を深めたり広め

たりしようとする。⑤課題と結びつけて、自分なりの意味をもたせた考えをもつ。⑥探究の過程から得られるものの価値を理解し、探究の楽しさを味わい、次の探究や学習につなげる。⑦課題解決を目的として、多様な考えに触れることのよさを理解し、よりよいものを創ろうとする。』ことを踏まえた教育活動を展開し、子どもたち一人一人が「小さなイノベーション」を積み重ねていくことができるよう、職員一同、取り組んでいます。



「魅せるプレゼン」講座

8月2日(火)から、コミュニティセンターにて、児童・生徒のプレゼンテーション能力の育成を図る、プレゼンテーション講座が始まりました。取材日には「伝えるスライド作り」の講座が行われ、参加者は、講師の大西先生にアドバイスをもらいながら黙々とスライド作りに取り組んでいました。

参加した児童は、「自分ではいい資料をつくっていたつもりだったけど、アドバイスをもらって、資料の作り方の違いにびっくりしました。とても勉強になりました。」と話してくれました。

今後、発表の練習を経て、10月16日(日)に発表会が行われます。



ご寄附をいただきました

8月30日(火)、幸手市防災安全協議会から、「防災および災害対応に係る寄附金」として、300万円の寄附をいただきました。

木村市長は、「災害時においてポンプ設置などの応急対応活動を行う幸手市防災安全協議会様には、大変ありがたく、非常に心強く感じています。寄附金につきましては、今後の防災および災害活動に有効に活用させていただきます。」と、受け取りました。

秋の恒例イベント 稲刈り体験 in 権現堂川小学校

9月6日(火)、権現堂川小学校の児童9人が、農家の増田さんや杉谷さんご協力のもと、稲刈りに挑戦しました。

数日前に降った雨が引かず、田んぼに水が張った状態での稲刈りでしたが、子どもたちは泥を服につけながらも、一刈り一刈り集中して、稲刈りを行っていました。

刈った稲は一束ごとにまとめて藁でく

くっていきます。全て刈り終えたら、竹でつくった稲架(写真右)に、「稲架掛け(写真中央)」を行い、稲を乾燥させます。そして、乾燥後複数の工程を経て、権現堂川小学校の給食に並びます。

参加した児童は「稲を刈る感触がおもしろかった。また鎌で刈ってみたい。」と話してくれました。



燎原短歌会

隣り家は

さんま焼くらし風にのり

秋の匂ひが

我家に届く

堀山徳子・中四

あさの日に

向きて彩るつつみ辺の

ひまはり畑に

感喜ただよふ

尾上喜子・栄六

千涸びし

みみずのあまた歩道のうえ

半月早く

梅雨の明けたり

中村孝子・南三

笠間焼きの

陶器のぬくもり伝いくる

カップに香る

コーヒーをふふむ

桑島正江・東四

万緑の

氷川神社にゆくりなく

綿帽子すがたの

花嫁と遇う

大熊昭子・東五



若草俳句会

今月の季題「日傘・金亀虫」

土間厨

裸電球金亀虫

新井久女・五霞町小福田

古日傘

めっきり足の衰えぬ

鴨田とし子・幸手市中

幼な子の

手のかなぶんの死んだふり

久保田美佐子・幸手市中

キャスターの

音曳いてゆく日傘かな

進藤洋二郎・幸手市緑台

灯点りて

子等の取り合ふこがね虫

柿沼杏・幸手市中

バス待つ間

日傘を向けてくれた人

齊藤若葉・幸手市中

銀座和光

背広姿の日傘かな

窪田幸代・幸手市香日向